

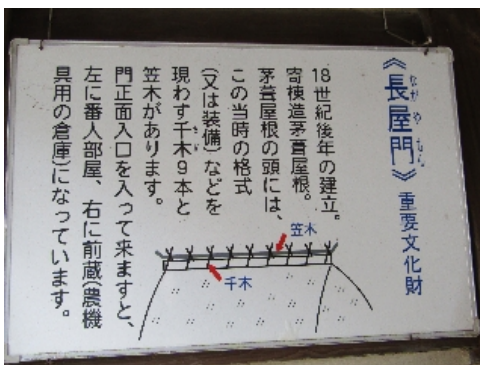
大鐘家(おおがねけ)のつるし飾展開催中!



大鐘家(重要文化財)の説明



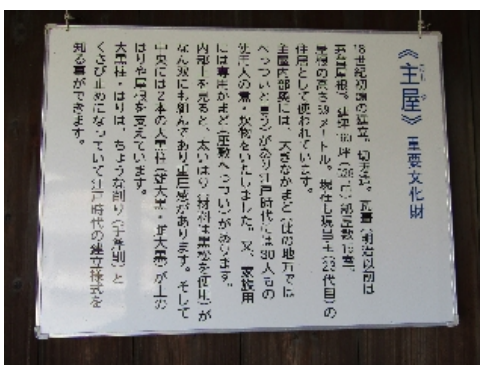
大鐘家長屋門(重要文化財)



長屋門の説明



大鐘家案内図



主屋の説明



主屋(重要文化財)

大鐘家(おおがねけ)の「つるし飾展」開催中
 令和3年1月9日(土)~5月上旬
 午前9時~午後5時
 入場料 大人500円 小人300円
 住所: 牧之原市片浜1032
 TEL: 0548-52-4277

国指定重要文化財 花庄屋 大鐘家(おおがねけ)

1597年、柴田勝家の家臣、越前丸岡城家老「大鐘籐八郎貞綱」が遠州相良に移住。江戸初期は旗本三千石の格式を持ち、十八世紀初め大庄屋となり、大鐘家館を築いた。現在、母屋・長屋門が「国の重要文化財」に指定されている。

大鐘家屋敷一万坪には、約一万本の紫陽花が在り、シーズン期間中観光客で賑わう。裏山に登れば富士山・駿河湾が一望出来る。

◆つるし飾展 1月上旬～5月上旬開催 ◆あじさい祭 5月下旬～7月上旬開催

◆酔芙蓉 9月上旬～10月中旬開催

「雛のつるし飾り」は、桃の節句の雛壇の両側に、はぎれで作っためいぐるみをつるす風習で、伊豆稲取温泉に江戸時代から伝えられています。「桃飾り」とも呼ばれる百十個の飾りには、それぞれ謂われや言い伝えがあり、子どもの成長を願う親の深い愛情が覗える郷土文化として今日に息づいています。



[ひな壇飾り](#)



[お内裏様とおひな様](#)



[つるし飾り](#)





[大黒柱と梁](#)

[竈\(かまど\)](#)

取材:小笠・榛南地区担当 生きがい特派員 高井 豊